



階段から考えるいえづくり

偶然路上で無用な階段を見つけた。多分建物の立て直すうちにそれを残した。それで、もともとドアとつながっていたはずの階段が今壁に面していて、機能が失ったて、階段とは言えない何物になっている。
もの本来の機能を失ったら、人は初めてそれを未知なものとして使いこなす。

階段は2つの空間を連接するためにう生まれてきたもの、建築を作るときに、まず必要な機能ルームを配置し、またそのつながりの部分を考えるが、そこで逆にまず上りと下りの階段状空間を作つて、またそこから生活に必要な機能を埋める。そして階段とは言えないものを階段にする。

